

SYDかわらばん

〈最新活動情報 No.162〉 2022年4月20日号

かわらばん特別企画「修養団と私」

1月号よりスタートいたしました「修養団と私」。毎月、組織間交流や運動推進の原動力として、各地で活動されている方々に特別寄稿いただいております。

修養団と私

千葉県連合会 事務局長 前田 和弘



修養団千葉県連合会では、毎年夏休みを利用して、「房総教育キャンプ」を長年にわたり行って来ました。開催に際しては「千葉日報社」「千葉県教育委員会」を始め、初代会長の茂木啓三郎氏のキッ

コーマン株式会社など多くの企業の後援・ご協力をいただき実施してまいりました。修養団千葉県連合会の特徴として、実に様々な業種の企業・団体また、学校などの教育機関にご協力をいただいていることがあげられます。私もこの房総キャンプを通じて修養団を知り、現在に至っております。

第1回は千葉県富津市の竹岡小学校で開催されましたが、私はこの時小学校5年生でした。ある日、見慣れない男性が自宅に来られ、房総キャンプに参加するよう言われ、何も判らないまま参加しました。この方が開催地の校長、高梨勝美先生でした。後に判ったのですが、この高梨先生を修養団とご縁を繋いだのが、私の祖父虎松だったそうで、地元の青年団活動（修養団は青年団活動と縁があった）に熱心だった祖父が修養団の活動を勧めたそうです。ボランティア活動という言葉も知られない頃、地域の為に、毎朝6時と夕方17時にホラ貝で時報を知らせるのが日課だったそうで、後にこのことが修養団に高く評価をいただき、表彰をいただいております。そんな「ホラ吹き爺さん」の孫が定年近い今日まで修養団活動に参加させていただいているのは何とも「縁」とは不思議なもので、また、修養団の活動の長さも感じます。



【昭和50年房総少年少女キャンプ 前列、中央が本人】

小学生だったキャンパーの私がリーダーとなり、県連の活動に参加し、そして指導者として今度はキャンパーを育てていく…、何とも不思議で長いご縁ですが、特に最近感じているのは、SNSの普及に伴い、キャンパーの小学生が成長する過程が見られ、結婚していく姿は言葉に出来ない感動があります。中には、その子どもさんが修養団に参加するようになったり、うれしさも更に倍増しています。キャンプの活動の中で、キャンパーの一番近くでお手伝いいただきリーダーも重要です。その素晴らしい人材を毎年送り出してくれるのは千葉黎明高等学校です。生徒さんは、キャンプ後も丁寧にご挨拶や近況もご連絡くださっております。

また、最近では趣味の音楽関係でお会いした方が、非常に礼儀深く芸術に熱心なのでお話を伺っていたら、黎明の卒業生であり、それがご縁でつながったり…。何もわからず参加したにもかかわらず、今や人生のほとんどが修養団と共に過ごさせていただいております。

前田 和弘さんへ《質問コーナー》

- ① 好きな言葉 → 「心」
人が人である限りどんな時代であっても大切な事
- ② 私のおすすめの本
→ 「偉人・著名人の伝記関連図書全般」
- ③ 好きな食べ物
→ 「新鮮な海鮮類」これはもう土地柄！
- ④ 趣味 → 「音楽全般」
- ⑤ 最近ハマっていること、または始めようとしていること
→ 「これも音楽関係全般」
- ⑥ 夢(子どもの頃と現在)
→ 音楽系 YouTuber (笑)
最近の SNS 音楽は、まだパソコンが楽譜を表示出来ない頃からずっとやってきたことが今主流になっている。
- ⑦ 会員の皆様へ一言メッセージ
→ こんな時代だからこそ修養団の理念が生かされる。というのか、どんな時代でも修養団は生かされている。

➡ご感想やメッセージなどありましたら、ぜひSYD社会教育部までご連絡下さい。

公益財団法人修養団「令和4年度事業計画基本方針」
 「事業の充実、組織の拡充」
 見直し、やり直し“みんなでまこう！幸せの種”



昨年度は第5波、第6波と言われる新型コロナウイルスの爆発的な感染拡大がおり、緊急事態宣言並びにまん延防止等重点措置が何度も延長されました。長引くコロナ禍の中、3密回避のため人流を抑え経済活動も自粛され、国民一人一人も感染防止に最大限の努力を余儀なくされました。しかし、国を挙げてのワクチン接種や医療分野をはじめ様々な事業分野で適切な感染対策も講じられ、感染拡大を抑え日常を取り戻すための努力や工夫がなされております。

そこで、感染の状況は予断を許さないところではありますが、今年度は2年あまり続いた活動自粛による事業の縮小、組織活動の萎縮を挽回するため、またコロナ禍により薄れた人と人とのふれ合いの大切さを取り戻すため、蓮沼門三初代主幹が訴えた《愛と汗の精神》をしっかりと見据え、感染対策を講じながらウィズコロナの時代に対応して各事業を見直し、やり直し、立て直しを図ってまいります。さらに、修養団の「総親和、総努力、総幸福」の明るい世界実現のための活動は、SDGsが掲げる国際目標に相通ずることから、引き続きその目標達成に寄り添い事業を展開してまいります。

そして、全国の会員およびクラブ・連合会と連携をより深め、学校や諸団体・機関の協力を得ながら、各事業を積極的に開催し、「こんにちは！」という“ふれあいの種”、「どうぞ！」という“思いやりの種”、「ありがとう！」という“よろこびの種”をまく“幸せの種まき運動”を力強く推進してまいります。

SYD 活動と SDG s

SYD 活動のほとんどが SDG s の目標達成に通ずる

🌱 幸せの種まき献金/フィリピン支援・海外支援/震災ボランティア



🌱 自然体験キャンプ/家庭共育セミナー/各種講習会



十伊勢講習会



十沖縄遺骨収集



今年度の新規事業等

青少年活動SYD指導者の養成

全国青年アカデミーキャンプ in 福島《文部科学省後援/子どもゆめ基金助成活動》【新規】

全国から集った中高大学生等の青少年が異年齢の仲間とともに大自然の中でキャンプ(共同生活)を実施。自然の素晴らしさや厳しさを感じながら、自然体験活動を積極的に推進するための知識や技能を習得するとともに、国連が定めるSDGs(持続可能な開発目標)に添った学びの場やテーマについての協議を行う中で、他者を思いやる心や積極的に汗を流せる自主性、コミュニケーション能力などの次代を担う青少年の心豊かな人間形成を図る。

開催数 2回 第1回：7月26日(火)～30日(土) <4泊5日>

第2回：令和5年3月31日(金)～4月4日(火) <4泊5日>

会場 ばんだいふれあいぴあ(福島県)

スタッフ等 外部講師3名、SYDスタッフ5名

対象 全国の中学生・高校生・大学生等の青年等

募集人員 各25名

ボランティア・アクション《文部科学省後援》【新規】

自然体験・福祉ボランティア活動の心構えや基本的技術を習得し、福祉施設や公共施設等での社会奉仕活動を実践することにより、社会奉仕体験活動の楽しみや喜びを体得するとともに、ボランティア精神を涵養し、地域で活躍する指導者としての資質の向上を図る。

開催数	6回（1泊2日～2泊3日）
開催地	キャンプ場や青少年施設等
スタッフ等	外部講師1名、SYDスタッフ2名
対象	全国（地域）の中学生・高校生・大学生等の青年等
募集人員	各20名

講習会・講演活動**「内宮古殿地清掃奉仕の集い」【新規】**

期日	11月、令和5年3月（各1泊2日）
定員	各80名
会場	伊勢青少年研修センター、伊勢神宮内宮

会員組織活動**第11回「全国修養団運動推進会議」**

各クラブ・連合会の活動を活性化する上で、事業や日常活動の具体的展開について協議するとともに、各会員組織間の情報交換等を行う。今年度から修養団の創立記念日に合わせ実施する。

開催日	令和5年2月11日（土・祝）～12日（日）
会場	SYDホール（東京都）
参加者	主なクラブ・連合会の代表者またはそれに準ずる人 35名

修養団の創立記念日を祝う会

開催日	令和5年2月11日（土・祝）
会場	SYDホール（東京都）

2/26～30…第2回「子ども自然体験スキーキャンプ」

32人〔福島県北塩原村・ばんだいふれあいびあ、裏磐梯スキー場〕〔高橋源一郎、板倉和也、谷野渉、増田航介〕



3月は特に天候に恵まれ、雪玉入れやぐるぐるバットリレーなど競い合い、また雪像づくりでは「村の宝物」をテーマに各村で“村の仲間たち”や“元気”などの作品を作り大いに雪遊びを満喫した。ナイトウォークでは、ペットボトルランタンを見ながら、そりに乗りお汁粉を食べ、日常では味わえない特別な時間を過ごした。スキーでは初心者もみんなすべれるようになり、無事に2日間を楽しんだ。

主催事業・活動等

《 》内は派遣者

報告

3/26~27...「WAKU×2ボランティアリーダー研修会」(北九州)13人〔福岡県北九州市・北九州市立玄海青年の家〕



《保坂正志》
 久しぶりの活動であることから「実践的内容のスキルアップ」「リーダー同士の親睦を深める」の2点を目的として活動を実施した。レクリエーションを体験しながら、行う意味を学んだり、野外炊飯では、リーダーとして何に注意すれば安全に活動できるかが確認できた。最初は緊張していた人も、最後には冗談や自分の考えを話したり笑い合いながら活動することができ、よい関係づくりが行えたと感じた。

(発信・眞子瑞紀)

3/26~27...「WAKU×2ボランティアリーダー研修会」(愛知)15人〔愛知県豊田市・公益財団法人オイスカ中部日本研修センター〕



《中山貴生》
 今回、新しい企画KJ法で“キャンプに参加する子どもたちの感動を大きくするにはどうしたらよいか”と案を出し合っ
 て夏キャンプに向けての課題を作成した。またリーダーの心得として、報連相、危機管理に最新の注意を払い、参加者に“いろいろなことを挑戦する勇気を与えること”の大切さが話し合われた。

村紹介、村旗を紹介するのを紙芝居形式で行い、一人ひとりの役割があり、参加者意識、帰属意識の向上に大いに役立つと感じた。キャンプの質向上の課題がいくつか見つかったことが幸いである。

(発信・高野修滋)



4/5~8...第1219回「みがく講習会」31人〔三重県伊勢市・伊勢青少年研修センター〕

《武田数宏、寺岡賢、山崎政弘、中山貴生、斎田聖生、竹本英美、亀田希奈里》

新入社員の皆様の爽やかさとベテランの皆様の学びに対する真摯な姿勢が合わさり、活気に満ち溢れた会となった。感想文を通して「参加することができ本当によかったと心の底から思います」など感想が寄せられた。



【幸せの種まきキャンペーン《出前講座》】

《山口千恵子、増田航介》

報告

3/20 修養団岐阜県連合会青年部ともしび会 30人



【青木崇晃氏による太鼓の披露も行われた】

予定

5/3~5...「青少年活動(キャンプ)担当者会議」

〔福島県・ばんだいふれあいぴあ〕

《毛利大介、板倉和也、谷野渉、増田航介》

5/28...第4回「Zoomでオンライン“愛と汗”

幸せの種まき講演会”“自分らしさを愛する”

〔東京都渋谷区・SYD中会議室〕

《谷野渉》

<発行・連絡先>

SYD(公益財団法人修養団) 社会教育部
 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2
 ☎03(3405)5441 FAX03(3405)5424
 E-mail : info@syd.or.jp
 ホームページ : https://syd.or.jp/

SYD

検索